

所得税の確定申告書の提出は3月15日(月)までに!

令和2年分所得税・復興特別所得税の確定申告会場は、**土・日曜と祝日を除く**以下の日程です。
 昨年、開催しました奈良県立図書情報館での確定申告期前の事前相談会場は、本年は開設していません。

会場名・所在地	開催期間・受付時間	注意事項
奈良税務署 (奈良市登大路町81)	2月16日(火)～3月15日(月)8時30分～16時 ・混雑緩和のため、入場整理券が必要です。整理券の配布状況により早めに受付を終了する場合があります。 ※土・日曜、祝日のうち、2月21日(日)・2月28日(日)のみ、確定申告用紙の配布、申告相談、確定申告書の收受の業務を行っています。	・ご来場の際はマスク着用をお願いします。 ・咳や発熱等の症状のある人や体調のすぐれない人は、入場をお断りします。 ・会場内に筆記用具等は用意しておりません。 ・駐車場は利用できません。 ・還付申告については、2月15日(月)以前でもe-Tax等で提出できます。

- ・申告手続き等にはマイナンバーの記載と本人確認書類の提示または写しの添付が必要です。
- ・市役所で2月上旬頃から確定申告関係用紙・手引き等の配布を行います。
- ・市役所でも、土・日曜と祝日を除く2月16日(火)～3月15日(月)の間のみ完成している確定申告書の提出ができます。確定申告書の控えに奈良税務署の受付印が必要な場合は、直接奈良税務署に提出してください。

◆ 確定申告はe-Taxが便利です

国税庁ホームページ「確定申告書等作成コーナー」からご自宅でも申告書を作成できますのでご利用ください。提出は印刷した申告書を郵送等するほか、PC・スマホで送信するe-Taxが便利です。送信方法は次の2つの方法があります。

■ マイナンバーカードを使って送信

必要なものは①マイナンバーカード②ICカードリーダーまたはマイナンバーカード対応のスマートフォン

■ IDとパスワードで送信

必要なものは、税務署が発行したID(利用者識別番号)とパスワード(暗証番号)

新たに発行を希望する場合は、ご本人が、顔写真付きの本人確認書類をお持ちのうえ税務署にお越しください。以下の日程で、スマートフォンを利用した確定申告の操作説明会を開催し、その際にIDとパスワードの出張発行も行いますのでご利用ください。操作説明会は、申し込みが必要です(定員24人、30分につき6人)。

開催日時	開催場所	申込方法
1月29日(金) 10時～12時	三の丸会館 研修室 (南郡山町529-1)	申込書を記載の上、奈良税務署へ郵送【申込書】奈良税務署・市役所税務課(窓口105・106番)で受取または、奈良納税協会HPからダウンロード

◆ 医療費控除は「医療費控除の明細書」の添付が必要となりました

医療費控除の明細書は国税庁ホームページからダウンロードしてご利用ください。

医療費の領収書は自宅で5年間保存する必要があります。医療保険者から交付を受けた医療費通知(健康保険組合等が発行する「医療費のお知らせ」等)を添付すると、明細の記入を省略できます。

◆ 令和3年度から適用される主な税制改正

- ・婚姻歴や性別に関わらず、生計を一とする子(合計所得48万円以下)を有する単身者(合計所得500万円以下)について、ひとり親控除を適用できます。
- ・給与所得控除額及び公的年金等控除額を10万円引き下げ、基礎控除額を38万円から48万円に引き上げました。
 ※給与所得と公的年金等に係る雑所得の両方があり、それらの合計額が10万円超の場合、10万円の控除が追加されます。
 ※合計所得が2,400万円超の場合、所得により段階的に基礎控除が減額となり、2,500万円超で控除を受けられなくなりました。
- ・青色申告特別控除(以下「65万円控除」)額が現行の65万円から55万円に変更になりますが、「現行の65万円控除」の適用要件に加えてe-Taxによる申告又は電子帳簿保存を行うと引き続き65万円控除が受けられます。

問合せ=奈良税務署(☎0742-26-1201)

若草山焼きに伴う郡山城天守台展望施設の特別開放について

日時=1月23日(土)17時～19時 ※荒天時中止。

※若草山焼きが中止の場合は、特別開放も中止。

場所=郡山城天守台展望施設

ご利用にあたってのお願い=車でのご来場はご遠慮ください

・展望施設は周辺を含み飲食禁止となっています

・展望デッキ上での三脚を使用するの写真撮影はご遠慮願います

・来場の際はマスク着用や咳エチケット、ソーシャルディスタンスの確保、大声での会話は控える等の感染防止対策にご協力をお願いします

・咳・頭痛等風邪症状のある人、その他体調のすぐれない人は来場を控えてください

問合せ=都市計画課(内線633)

◆「特殊詐欺被害抑止標語」『わかっている』そう思う人ほど「サギに遭う」(松本匠史さん)